

# 経営・経済動向調査

2016年10月～12月期実績と2017年1月～3月期及び2017年4月～6月期予想

< 調査時期：2017年1月 >

〔BSI値について〕

BSIとは、Business Survey Indexの略で、BSI値は景気全般の見通しについて、強気、弱気度合を示す。プラスならば「強気」「楽観」を、マイナスならば「弱気」「悲観」を意味する。

算出方法

上昇と回答した企業の割合 - 下降と回答した企業の割合

$$B.S.I = \frac{\text{上昇と回答した企業の割合} - \text{下降と回答した企業の割合}}{2}$$

## 【調査の概要】

本調査は、地域の中小企業を取り巻く経済環境が深刻な状況を呈している中、亀岡市域における業界景気・経営経済動向と景気動向を把握し、企業の再生・活性化を促進するとともに、今後の景気対策を図ることに寄与するため実施している。

調査は、4半期毎に、年4回実

〔 回 答 状 況 〕				
	調査数	回答企業数	回答率 (%)	回答企業の構成比 (%)
総計	450	211	46.9	100.0
商業	152	75	49.3	35.5
食品	53	24	45.3	11.4
小売商業	65	37	56.9	17.5
一般商業	34	14	41.2	6.6
工業	131	59	45.0	28.0
機械金属電子工業	39	18	46.2	8.5
建設工業	61	26	42.6	12.4
一般工業	31	15	48.4	7.1
観光	167	77	46.1	36.5
理財金融	31	12	38.7	5.7
交通運輸	32	13	40.6	6.2
観光サービス	40	19	47.5	9.0
生活衛生	29	14	48.3	6.6
情報サービス	35	19	54.3	9.0

【調査の概要】  
 実施、小規模企業振興委員の活動として事業所へ配布・回収を行っている。アンケートは所定の項目について回答頂き、集計分析を行い景気動向等の把握をするもので、当所会員事業所を対象に450社に調査を依頼し、今回、平成28年度第3四半期（平成28年10月～12月）の調査結果をまとめました。尚、業種別回答状況は、右表の通りである。

## 【概況】

亀岡市域における業界全体の景気について、2016年10月～12月のB・S・I値は▲14.8ポイント（前期比7.0）と大幅に上向きの結果となった。今後は、1月～3月期が▲17.2ポイント、4月～6月期には▲15.9ポイントと下向いたのち、上向く見通し。

業種別で見ると、商業関係が前期比2.7ポイント、工業関係が前期比7.2ポイント、観光サービス関係が前期比9.3ポイントと全業種共に大幅に上向きの結果となった。

今回の調査における経営上の問題点としては、1位『売上不振』、2位『求人難』、3位『価格安』となり前回に比べ2位以下は変化が見られるものの1位については変化のない結果となった。以下、人件費高騰、受注不振が問題点として続いた。

その他、主な意見として、

### 〔商業関係〕

- 消費喚起のための対策を行ってほしい。
- 京ブランド及び丹波ブランドをより一層確立させ、首都圏進出を図る必要がある。
- 亀岡市の人口減少、少子化問題等により商品が売れない。
- 設備投資に関する補助金の情報がほしい。

### 〔工業・建設関係〕

- 適正価格での契約が困難になっている。
- 地産地消、京都府産という行政指導が足かせになっている様に感じる。

### 〔観光サービス・理財金融関係〕

- 亀岡駅周辺の活性化を図る必要があると感じる。
- 人材不足である。
- 消費税増税や最低賃金上昇による影響が、非常に大きい。
- 若者減少、特に京都学園大学移

転による影響が大きいと感じる。  
○組織として何か行動に移すべきだと感じる。

○売上不振により圧迫されている。何か対策があれば教えてもらいたい。

○景気対策といっても、中間層の経済は上昇しない。

○年中集客能力の高い施設を建てる必要がある。

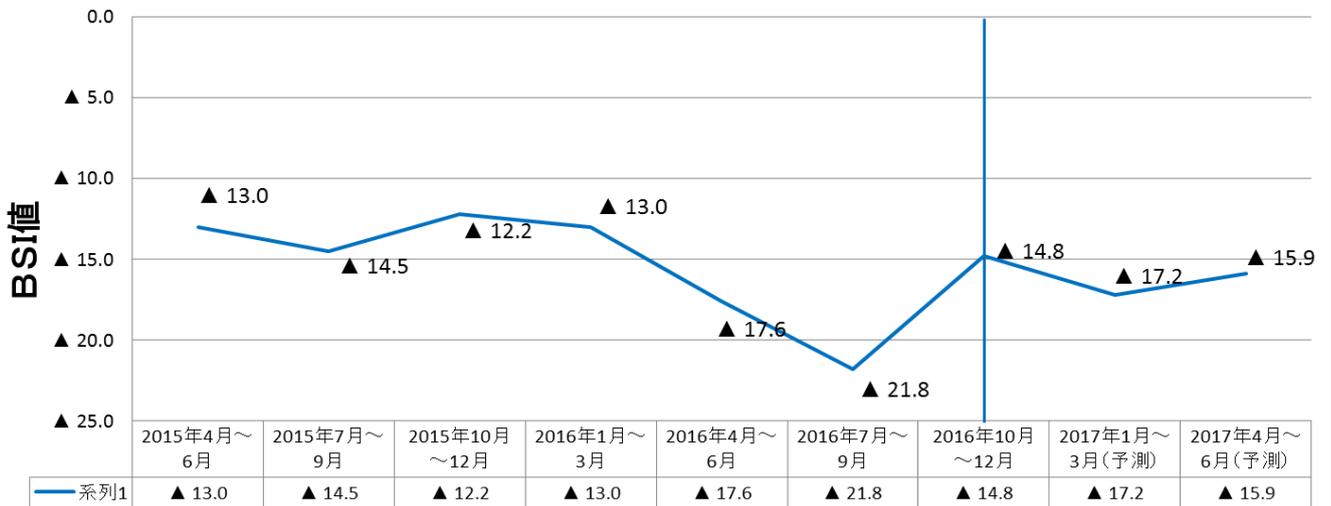
○トランプ政権の影響力が大きいと感じる

(調査結果推移(一部抜粋)は以下の通り)



## 亀岡の経営・経済動向の推移

### I. 亀岡市での貴社の業界全体景気(BSI値)



〔コメント〕2016年10月～12月のB・S・I値は▲14.8ポイント(前期比7.0)と大幅に上向きの結果となった。今後は、1月～3月期が▲17.2ポイント、4月～6月期には▲15.9ポイントと少し下向いたのち、上向く見通し。

【業種別】商業関係が前期比2.7ポイント、工業関係が前期比7.2ポイント、観光サービス関係が前期比9.3ポイントと全業種共に大幅に上向く傾向にある。